

#### 46 「セキセイインコ」

先月4月の半ば頃、家にセキセイインコのカップルを迎えた。オスがブルー、メスがグリーンで鳥かごにお住まいだ。前から飼いたいと思っていたのがやっと実現した。

飼い始めてほぼ1ヶ月、毎朝鳥かごの掃除をして餌と水を替えている。餌は主食が粟・稗、それにカルシウム補給に牡蠣の殻を砕いたナチュラルボレーとビタミン補給のため小松菜。

餌替えのために近づくと、いつも恐れおののくようにカゴの隅にうずくまるのだが、もう少し学習して欲しいなあと思う。離れるとすぐにエサを食べるのだが、慣れるのは鳥には無理なのだろうか？

毎日世話して見ているととにかく可愛い。餌を食べる様子、啼き声、そして忙しく動き回るユーモラスでトリッキーな動き。ヘッドバンのように頭を上下に振ったり、口ばしでカーテンを引っ張ったり。そして時々狭いカゴの中を暴れまわる。

夜はだいたい9時頃、ダンボール箱を被せ暗くして眠らせる。家の中で人間と共に生活しているので、自然の中と環境が違うのが少し可愛そうだ。

チュルリチュルリ・グチュグチュ啼くのは多分喋っているのだろう。特にオスがよく喋る。とても仲がよく、頻りに口ばしでチュウしているのは愛情表現なのだろうか？最近、擦り寄ったり追っかけっこしたり、オスがメスの上に乗ったりするようになった。発情期を迎え、もしや？？、、、。そして今日（5月25日）瞬間だがメスが巣箱の中に入った！いよいよか？雛が産まれれば嬉しいなあ。楽しみが一つ増えた。



暖かくなり、アリが家の中の甘いものを狙って入って来る。勝手口の扉の隙間から家に入り、キッチンの隅を行列で進み甘いものに群がる。人の目にみえない、床に落ちたカステラの食べカスやゴミ箱に捨てた菓子の袋など、本当によく見つけるものだ。死んだ小さい青虫のような幼虫に群がる様は、少しばかり気味悪かった。しかし、どんなにしつこくともアリたちを殺す気にはならない。別に人に危害を与えるわけではないし、甘いものの始末さえきちんとすれば彼らはすぐどこかに行ってしまう。

アリも与えられた命をその本能に従って生きている。植物も動物も、すべての生物は何億年もかけて、原始的な単細胞生物から進化したものだ。そして子孫を残そうとしている。人がいとも簡単に潰すことができる小さなアリも、地球上で大いに繁栄しているかなり高度な生物である。この家の中にいるインコ、水槽の熱帯魚、アリ、そして多分ゴキブリ、それにいろいろな植物もみな同じだ。それぞれ生きていくために必要な、独自の素晴らしい能力を備えているのである。

つき詰めれば、すべての生物は同じ元素で創られている。炭素、酸素、水素、窒素、、、。

それらの元素が組み合わせられ、複雑で神秘的ともいえる働きをするたんぱく質が作られ、生命活動の源になっているのだ。元素はクォークでつくられた原子核（陽子・中性子）と、その周りを取り巻く電子でできているのだから、結局全ての生物はわずかに数十種類の同じ素粒子の組み合わせで形づくられているわけだ。地球上のどんな生物も、宇宙からもたらされた同じ元素を使いまわして生きている仲間なのだ。

このように考えてくると、少し煩わしいアリもとても殺すことはできない。人間以外の生物は、生きるために他の命を犠牲にすることがあっても、憎いとか忌まわしいという理由で命を奪うことはない。

人間だけが、人が生きていくのに邪魔になるとか、経済活動の妨げになるといったような理由で、不条理に生物の命を奪っているのは身勝手だなあと思う。本能のままに楽しそうに啼き、動きまわっているセキセイインコを見ながらそんなことを考えた。(2013年6月3日)